

アルゼンチンの乳製品生産・輸出動向



平成26年7月25日
独立行政法人農畜産業振興機構
調査情報部 米元 健太

本日の内容

- 1 基礎情報（経済概況）
- 2 生産動向（生産状況、特徴）
- 3 輸出動向
- 4 取り巻く課題
- 5 今後の見通し





1 基礎情報(經濟概況)

アルゼンチンの経済概況

- 人口：4128万人（2012年）
- 面積：278万平方キロメートル（日本の約7.5倍）
- 1人当たりの実質GDP：12,019米ドル（2013年）※資料：IMF
- 消費者物価上昇率：10.9%（2013年）※資料：国家統計センサス局（INDEC）
- 実質GDP成長率：

2010～2011年にかけて、年9%前後の高い経済成長を記録した。2012年以降、最大の貿易相手国である隣国ブラジルの経済低迷を受け、アルゼンチンの輸出産業は不振に陥り、低成長で推移（2012年0.9%、2013年3.0%）。

- 大きな懸念材料…

2002年のデフォルト（債務不履行）の影響が現在も残っており、最近、再びデフォルトを引き起こすリスクが強まっている状況にある。



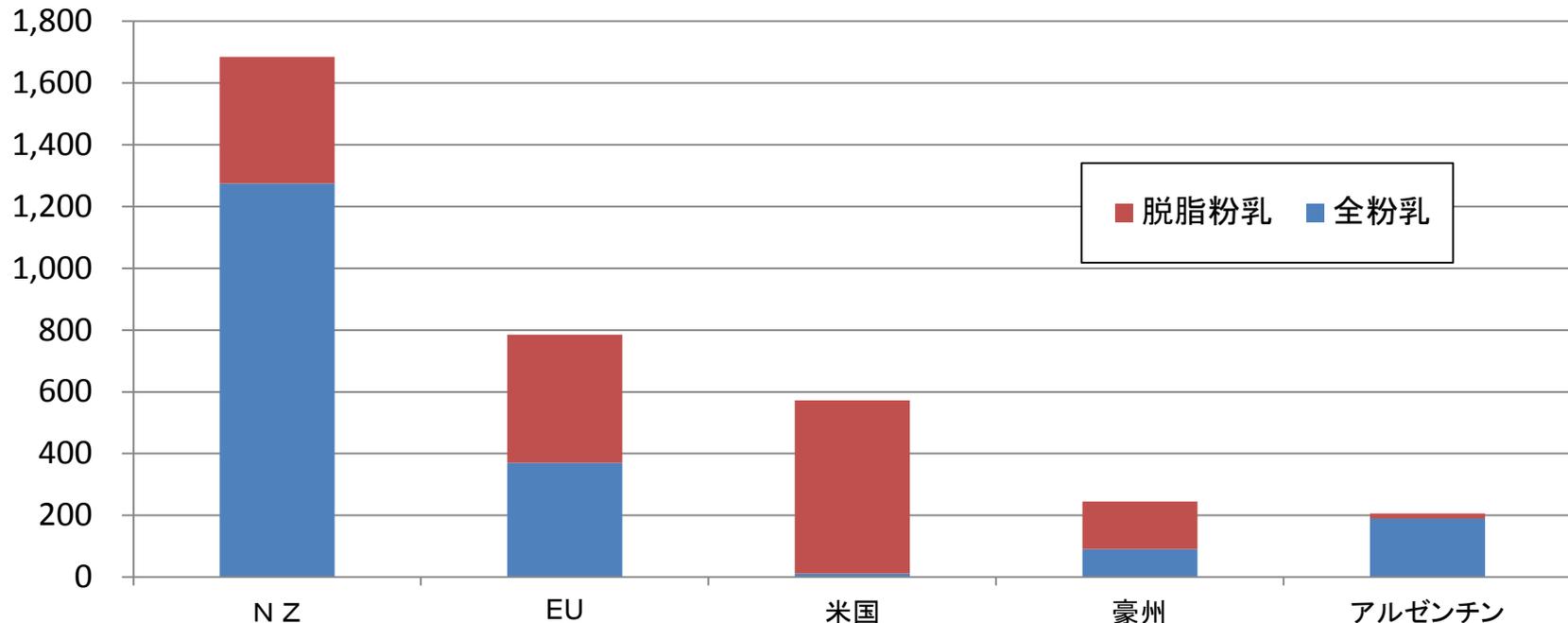
2 生産動向(生産状況、特徴)

粉乳の主要輸出国（2013年速報版）

ポイント

- アルゼンチンの生乳生産量は世界第8位の1180万トンであるものの、粉乳輸出量はNZ、EU、米国、豪州に次いで**第5位**、全粉乳輸出量に限れば、NZ、EUに次いで**第3位**。

(千トン)



資料: 米国農務省 (USDA) 「Dairy: World Markets and Trade」

日本とアルゼンチンの酪農・乳業比較

ポイント

- アルゼンチンの飼養形態は放牧主体。
- 1頭当たり乳量は日本の7割程度、生乳生産は日本の1.5倍

区分	アルゼンチン(2012年)	(日本との比較)	日本
酪農家戸数	1万1049戸	(0.6倍)	1万8600戸(2013年度)
経産牛飼養頭数	219万3000頭(※)	(2.4倍)	89万3000頭(2013年度)
主要飼養品種	ホルスタイン		ホルスタイン
飼養形態	放牧		舎飼い
1戸当たり飼養頭数	145.6頭	(1.9倍)	75.0頭(2013年度)
生乳生産量	1168万トン(※)	(1.5倍)	744万7000トン(2013年度)
1頭当たり乳量	5,330リットル(※)	(0.7倍)	8,154キログラム(2013年度)
国内消費量	857.2万トン	(0.7倍)	1171.8万トン(2012年度) (飲用34%、乳製品65%)
1人当たり年間消費量 (生乳換算)	209.5リットル	(2.3倍)	89.5リットル(2012年度)

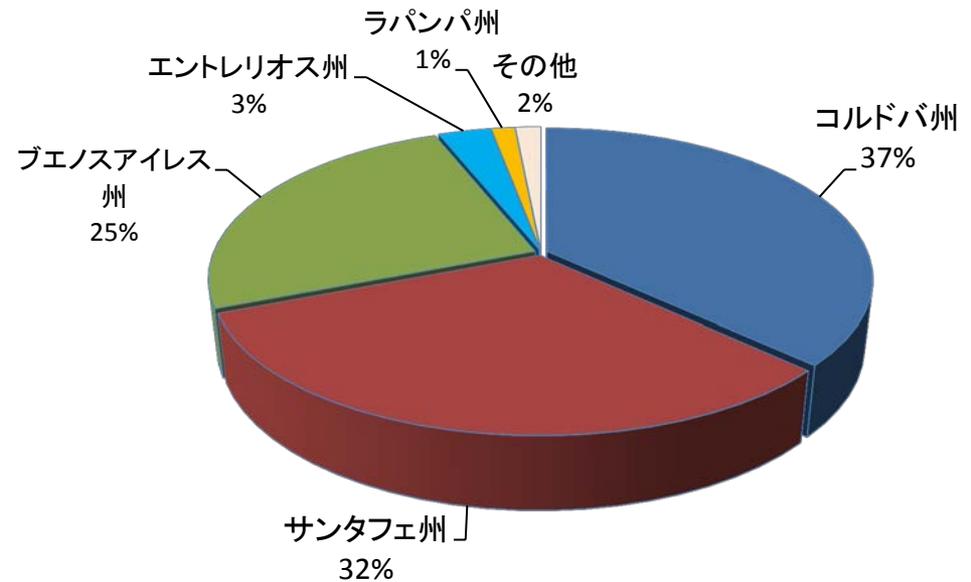
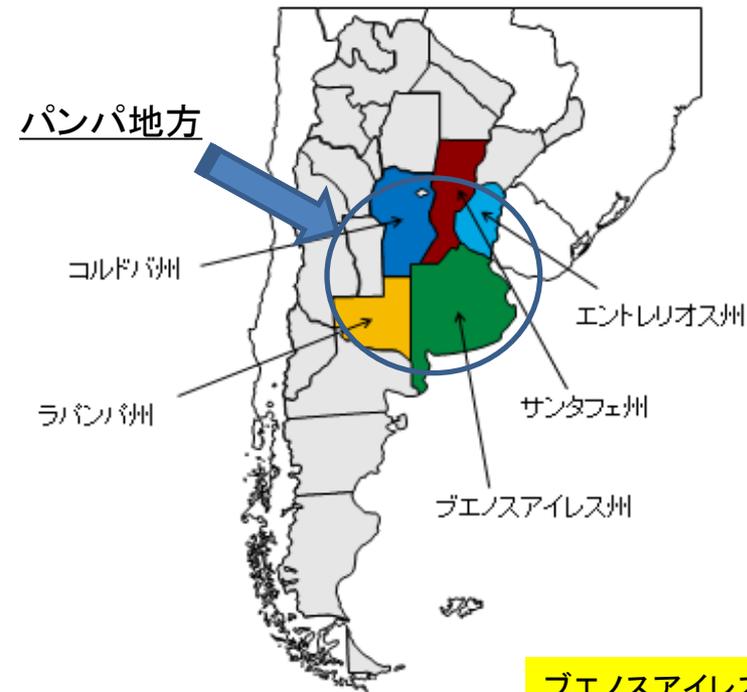
資料: アルゼンチン農牧漁業省(MINAGRI)、アルゼンチン乳業振興開発財団(FunPEL)、※印は米国農務省海外農業局(USDA/FAS) 農林水産省「畜産統計」、「牛乳乳製品統計」、「食料需給表」より機構作成

主な生乳生産地域

主要生乳生産地域

州別生乳生産割合

※下記の州は主要酪農地帯の
パンパ地方に位置する州



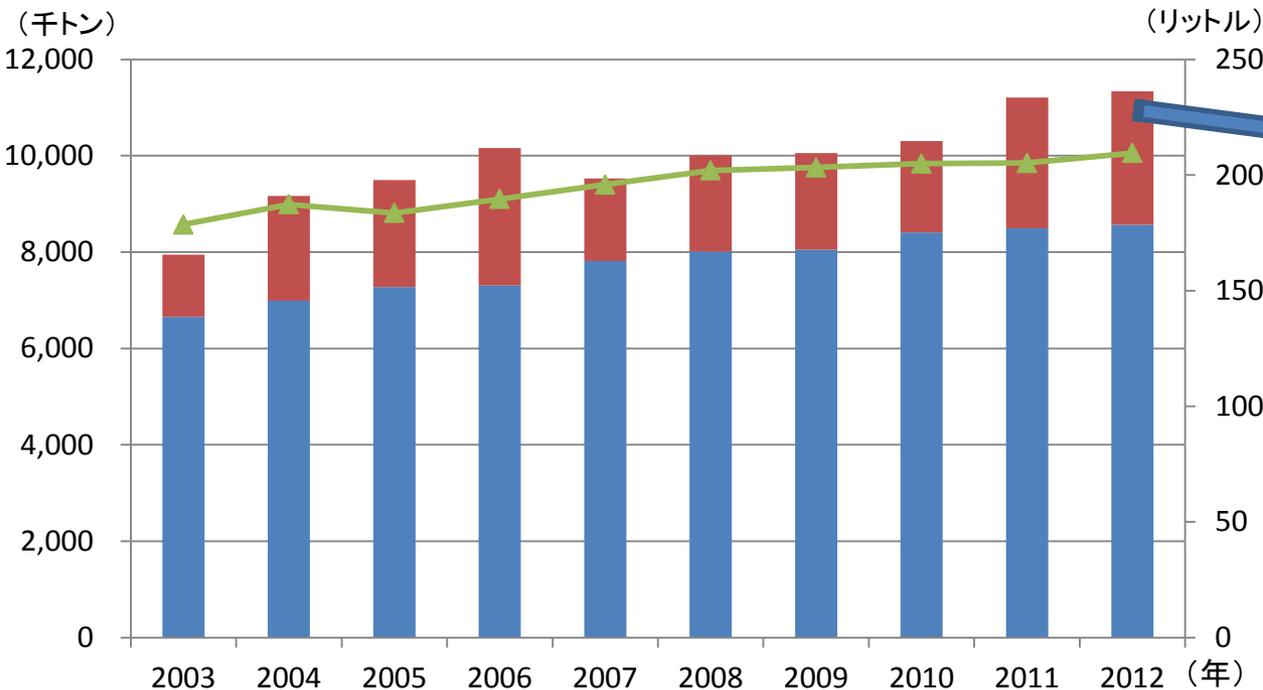
資料: MINAGRI

ブエノスアイレス市
平均気温: 18℃
年間降水量: 1,162.7mm

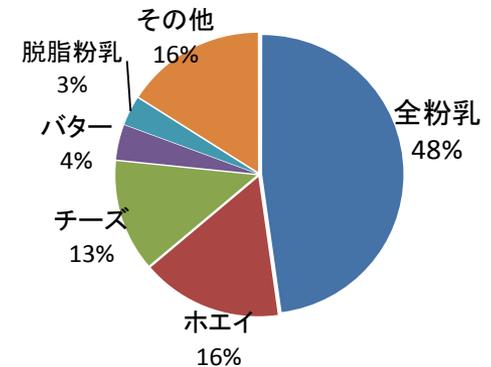
生乳生産量の推移

ポイント

- 生乳生産量は、肥沃な土壌を有するパンパ地方を中心に**安定的に増加**。
- 1人当たり消費量は、経済状況を反映して当面著しい増加は見込めない状況。
- 国内市場は成熟しつつあるため、乳業界は輸出仕向けを高めていく方針
⇒ **増産は外需が牽引**



乳製品輸出量(2012年)
(42万トン)



■ 国内仕向け量(左軸) ■ 輸出仕向け量(左軸) ▲ 1人当たり消費量(生乳換算:右軸)

資料: アルゼンチン国家統計局 (INDEC), MINAGRI

乳牛飼養サイクル（事例紹介）

放牧（昼夜）



飼料給与（搾乳前）



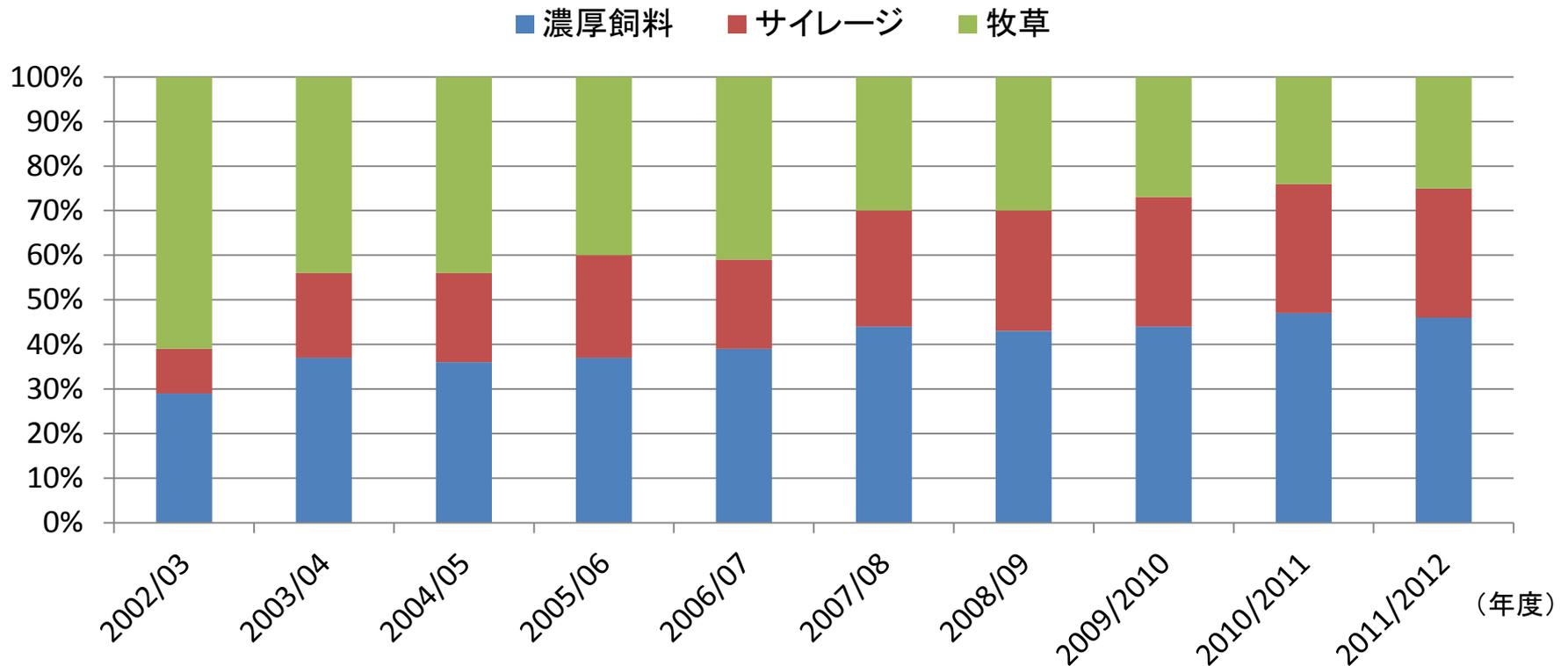
ミルクングパーラーでの搾乳



飼料給与割合の推移

ポイント

- 従来の牧草を中心とした粗放的な生産体系から、2007年の牧草不作を契機に、牧草と濃厚飼料を組み合わせた給与体系に徐々に転換。
- 主な濃厚飼料原料は、大豆かす、トウモロコシ。サイレージ原料は、トウモロコシ、アルファルファ。

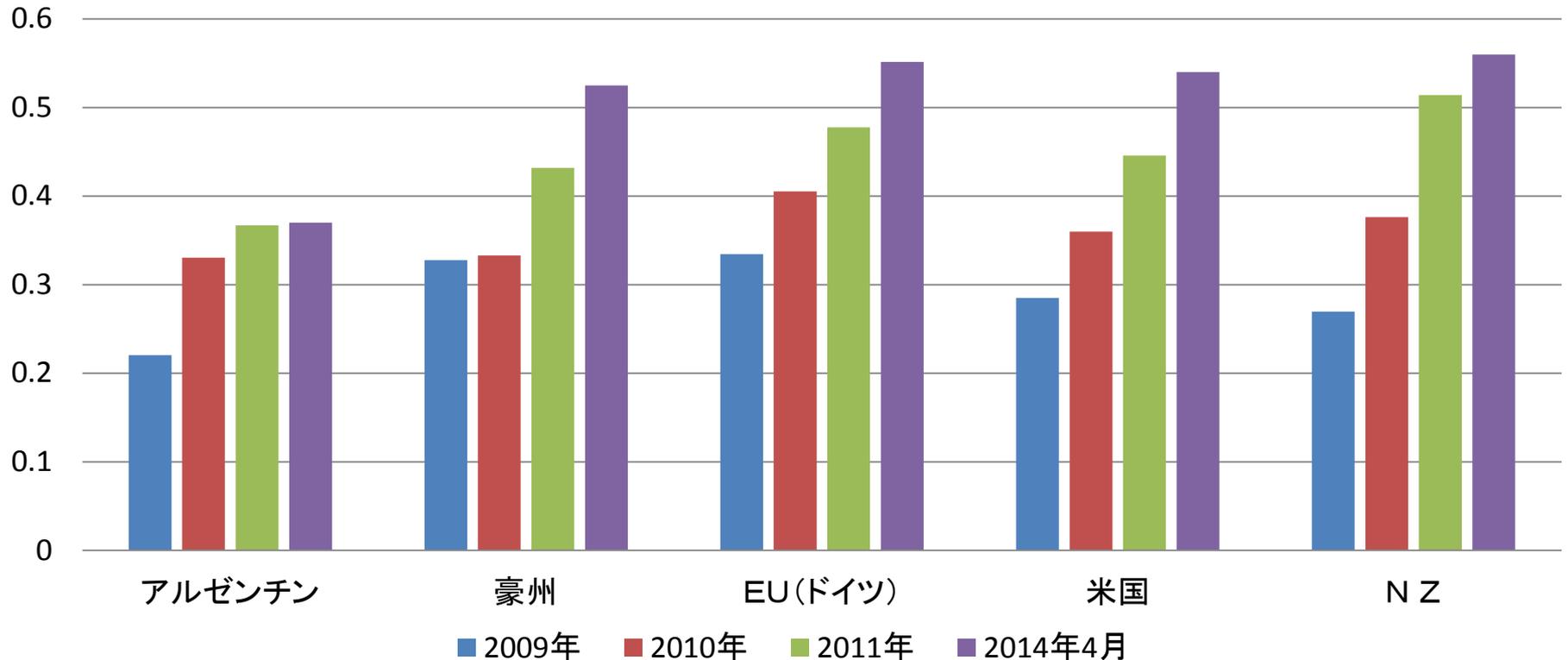


乳価の価格優位性

ポイント

- 酪農家は自ら穀物を生産することにより、安価に飼料穀物を調達できることや人件費が安いことなどから、主要乳製品輸出国の中で**最も安い乳価**。

(ドル/キログラム)



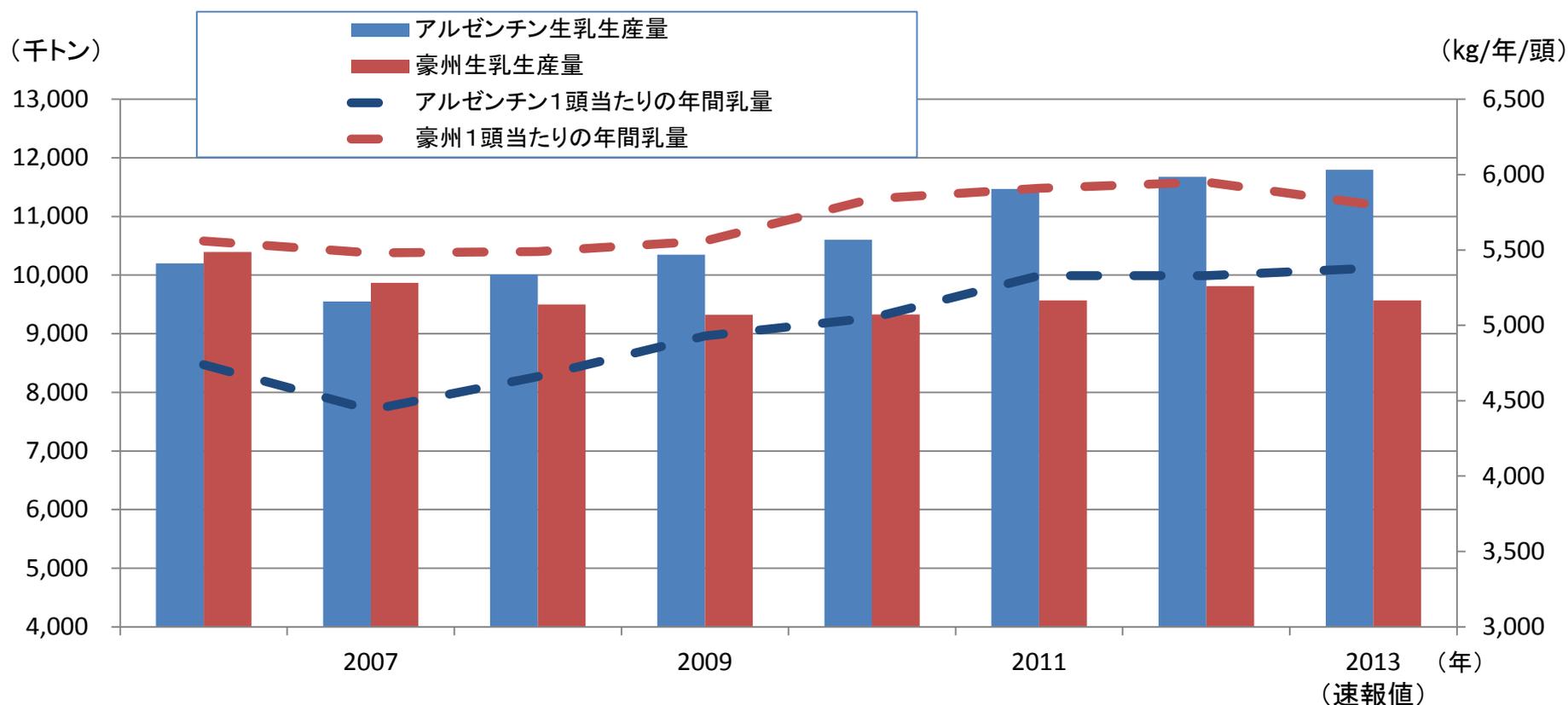
資料: 2009~2011年はFAO STAT

2014年4月はMINAGRI, Dairy Australia, ZMB, USDA Economi lactea

アルゼンチンと豪州の生乳生産比較

ポイント

- 粉乳輸出量がほぼ同じである豪州との生乳生産量を比較すると、豪州は気候の影響を受けて変動するものの、アルゼンチンは安定した気候により増産傾向で推移。
⇒ **アルゼンチンは気候が安定し、生乳生産に優位性**
- 1頭当たり乳量は、濃厚飼料給与割合の上昇や品種改良により、豪州の水準に近づいている。





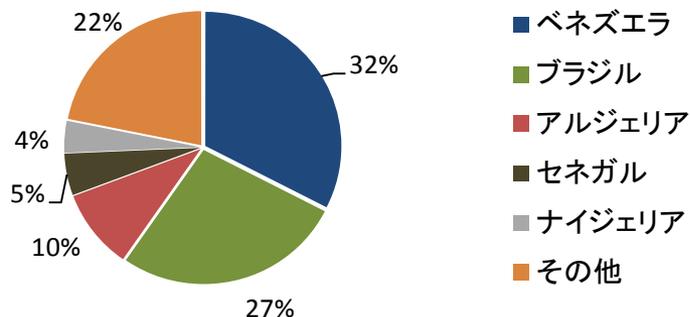
3 輸出動向

アルゼンチンの乳製品別輸出先内訳の変化 (2008年と2013年)

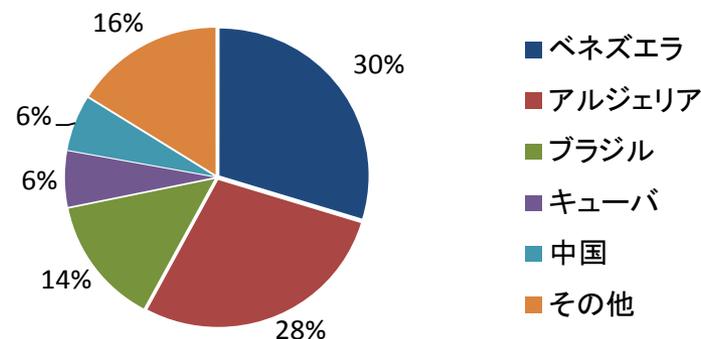
ポイント

- 従来市場は、①メルコスール加盟国、②北西アフリカ諸国中心。
- 近年は、これに加え、**中国向けを中心にアジア向けが拡大**（新興市場の開拓）。
- 特に、中国向け全粉乳、ホエイの輸出量の増加が目立つ。

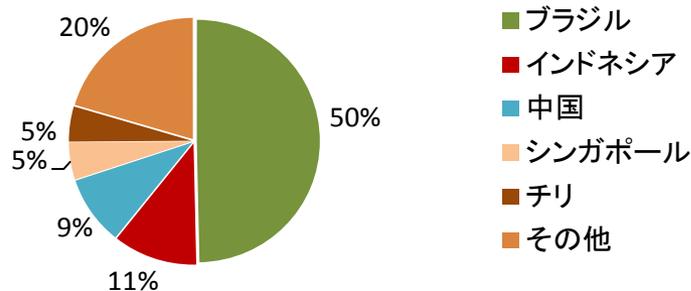
2008全粉乳(103,419トン)



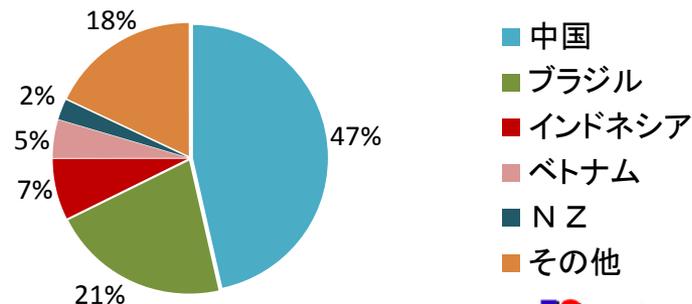
2013全粉乳(182,487トン)



2008ホエイ(30,726トン)



2013ホエイ(73,645トン)



中国の全粉乳の国別輸入量の推移 (2010～2013年)

ポイント

- 従来の輸入は、NZ、豪州、EU産が中心。
- 近年、旺盛な需要に応えるべく、EUと比べて価格が安い南米(アルゼンチン、ウルグアイ、チリ)産の輸入を拡大。

中国の全粉乳(HSコード:040221)国別輸入量シェアの推移

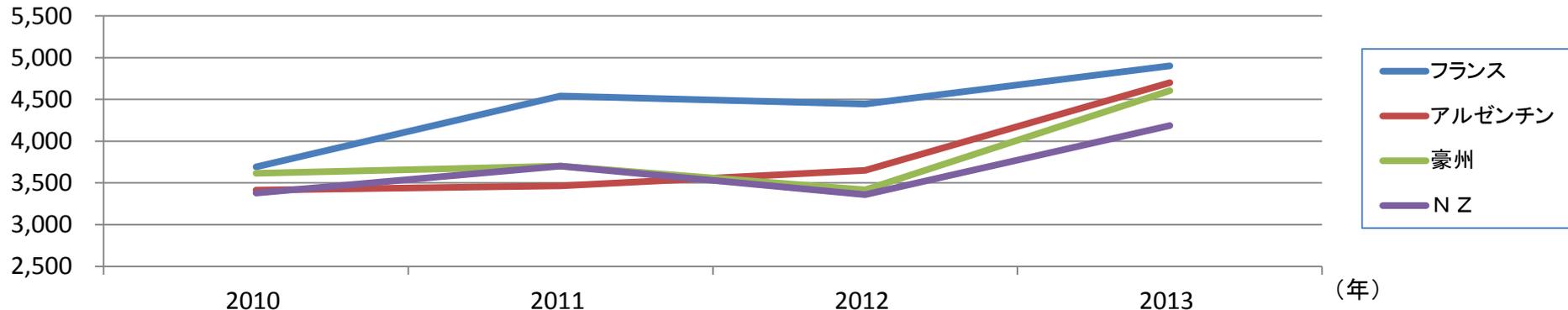
	2010年 32万4752トン	2011年 31万8033トン	2012年 40万2661トン	2013年 61万7798トン
1位	NZ(88%)	NZ(93%)	NZ(97%)	NZ(91%)
2位	豪州(5%)	豪州(2%)	豪州(1%)	豪州(2%)
3位	デンマーク(3%)	デンマーク(2%)	デンマーク(0.7%)	ウルグアイ(1%)
4位	ベルギー(1%)	チリ(1%)	シンガポール(0.4%)	アルゼンチン(1%)
5位	フランス(0.4%)	アルゼンチン(0.5%)	チリ(0.4%)	シンガポール(0.6%)

資料:GTI社「Global Trade Atlas」

HSコード:040221

(ドル/トン)

中国の全粉乳の国別輸入価格(CIF)の推移



資料:GTI社「Global Trade Atlas」

HSコード:040221

中国のホエイの国別輸入量の推移 (2009～2013年)

ポイント

- 従来の輸入は、米国、EU産が中心。
- 近年、旺盛な需要に応えるべく、EUと比べて価格が安いアルゼンチン産の輸入を拡大。

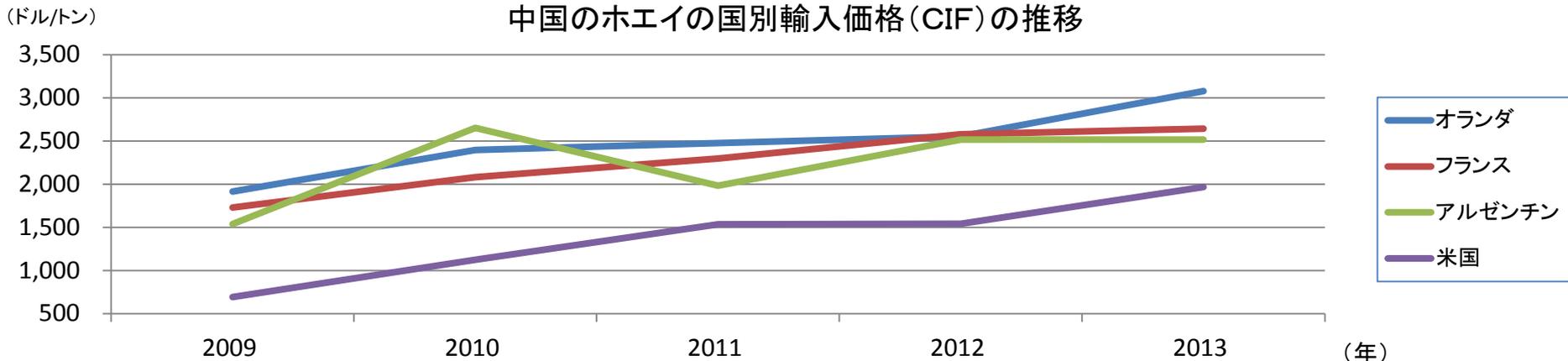
中国のホエイ国別輸入量シェアの推移

	2009年 28万7537トン	2010年 26万2992トン	2011年 34万1849トン	2012年 37万5981トン	2013年 43万603トン
1位	米国(47%)	米国(54%)	米国(55%)	米国(46%)	米国(47%)
2位	フランス(17%)	フランス(14%)	フランス(14%)	フランス(15%)	フランス(16%)
3位	ドイツ(5%)	ドイツ(6%)	オランダ(6%)	オランダ(6%)	アルゼンチン(9%)
4位	フィンランド(5%)	フィンランド(5%)	ドイツ(6%)	アルゼンチン(6%)	オランダ(6%)
5位	オランダ(5%)	オランダ(4%)	アイルランド(5%)	ドイツ(6%)	ドイツ(5%)

資料:GTI社「Global Trade Atlas」

HSコード:040410

中国のホエイの国別輸入価格(CIF)の推移



資料:GTI社「Global Trade Atlas」

HSコード:040410



4 生産、輸出を取り巻く課題

乳製品の輸出に係る課題

- アルゼンチンの生乳価格は安いものの、製品価格で比べると優位性は低下。背景には、2つの要因が考えられる。

① 設備更新の遅れ
中小乳業メーカーの乱立



乳製品製造のコスト高



② 国内供給優先の政策

- 輸出登録制度 (ROE) ... 2007年から製品輸出時の登録制度開始

⇒ 手続きが煩雑になり、取引以外の部分で手間とコストが増加

- 輸出税... 国内市場向け乳業メーカーに比べて輸出企業が多く利益を得るようになった場合に課せられる ⇒ 輸出量が多い企業ほど輸出税納付額が大きくなる仕組み



政府が輸出を振興していない現状



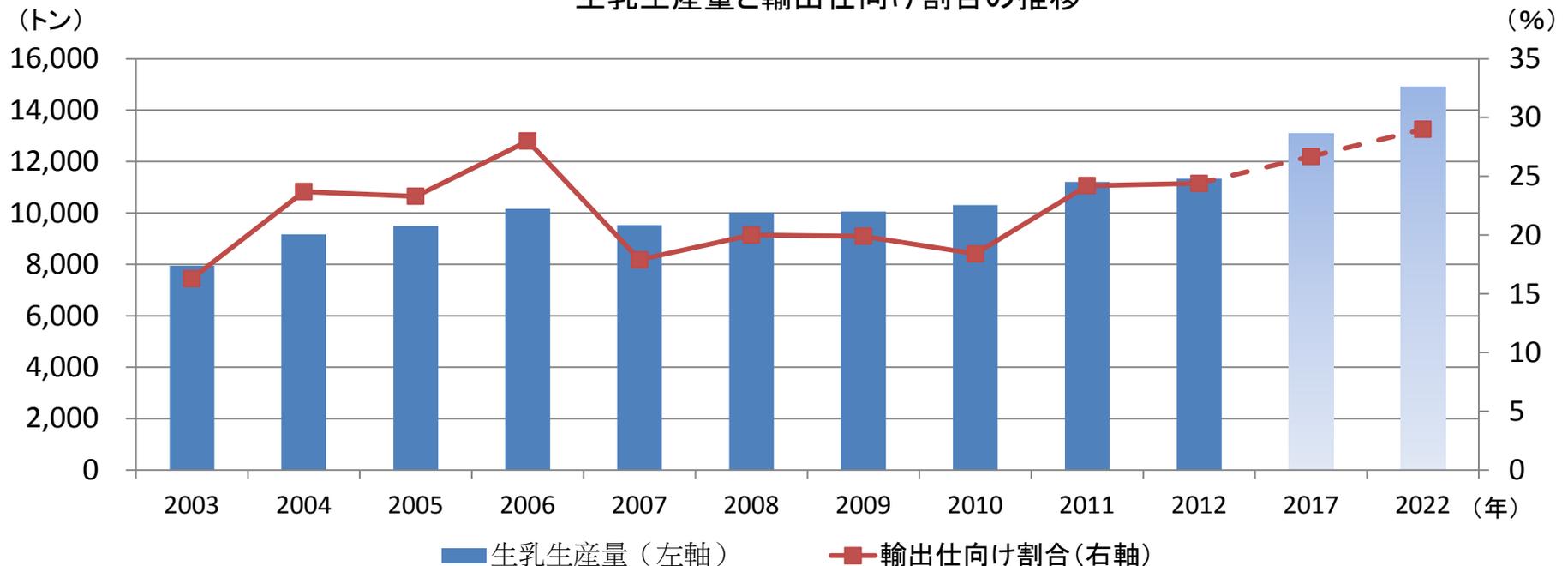
5 今後の見通し

今後の生産見通し（INAI）

ポイント

- 2014年3月、アルゼンチン農業研究財団（INAI）が2022年までの長期予測を作成。
⇒ 2022年までアジアからの粉乳等の需要増を受け、生乳生産は増加見通し。
- 内需の増加はさほど見込めないため、生乳生産に占める輸出仕向け割合は23.5%から29.0%に上昇見込み（増産分の4分の3は輸出に仕向けることに）。

生乳生産量と輸出仕向け割合の推移



資料: INAI

注: 2017年、2022年は予測値

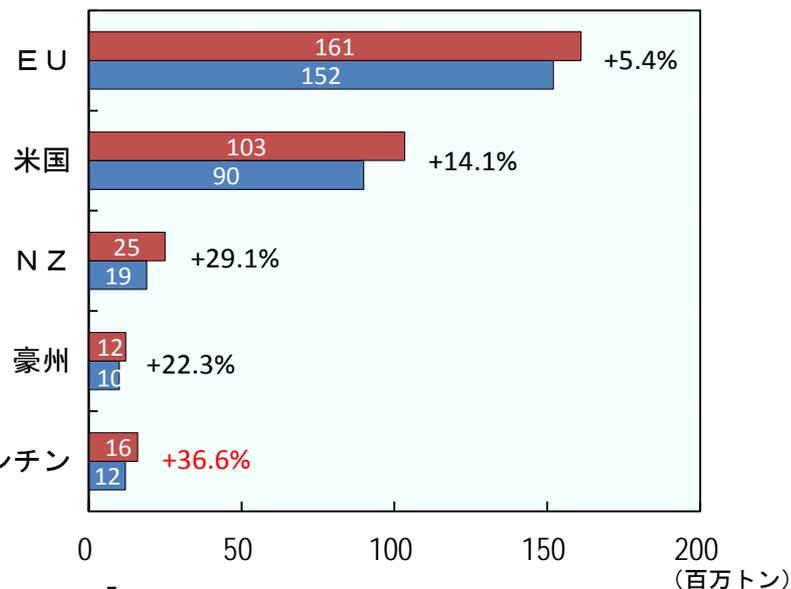
主要乳製品輸出国の生乳生産・輸出見通し（OECD-FAO）

ポイント

- 2023年のアルゼンチンの生乳生産量は、他の主要輸出国と比べて最も伸び率が高い（OECD-FAOの農業見通し）⇒要因は、①飼料調達の容易さ、②1頭当たり乳量の増加。
- 全粉乳輸出量は、NZに次ぐ伸び率を見込む。

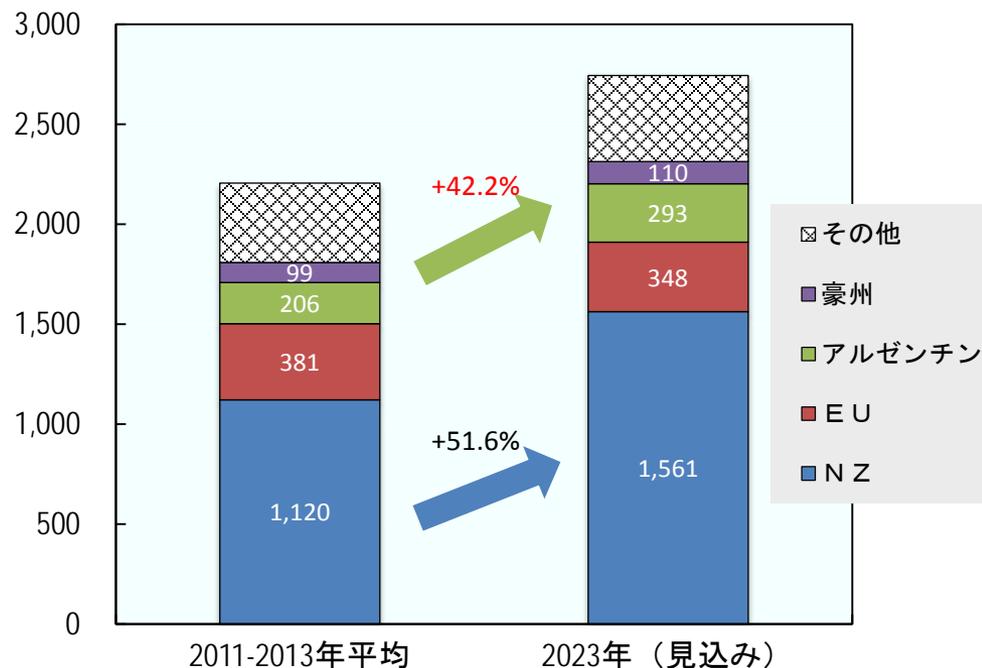
主要乳製品輸出国の生乳生産予測

■ 2023年（見込み） ■ 2011-2013年平均



全粉乳の主要輸出国の輸出量予測

(千トン)



資料: OECD-FAO「Agricultural outlook 2014-2023」
注: 2013年は概算値

資料: OECD-FAO「Agricultural outlook 2014-2023」
注: 2013年は概算値

まとめ



- 今後のアルゼンチンの生乳生産量は、アジア等からの乳製品需要増を背景に、品種改良の進展や濃厚飼料給与割合の上昇等により、**増産の見込み**。
⇒**全粉乳、ホエイを中心に今後も乳製品輸出量は増加する見通し**。
- アルゼンチンの生乳価格は、他の乳製品主要輸出国と比べると割安であるものの、製品価格で比べると優位性は低下。
⇒これは、政府が国内市場への供給を優先するなど、アルゼンチン特有の輸出環境が影響（ポテンシャルを発揮できていない状況）。
- アルゼンチンは再びデフォルト危機に直面しており、現状は不安定。**2015年の大統領選**までは、現状の国内供給優先の政策が継続される見込み。

ご清聴ありがとうございました。



※本情報は、情報提供を目的とするものであり、取引・投資判断の基礎とすることを目的としていません。本資料の正確性の確認等は、各個人の責任と判断でお願いします。提供した情報の利用に関連して、万が一、不利益が被る事態等が生じたとしても、ALICは一切の責任を負いません。